

路面電車

文化を運ぶ

電車のちょっといい話

「お城下へ行く」「高知へ行く」子供のころの最高の心ときめく出来事も電車とともにありました。「今ごろどこでどうしゆうろう」と懐かしく思い出される人がいるのも電車です。

窓の外が見渡す限り緑のじゅうたんになった6月ごろ。8月の稲刈りのころの窓からの風のおい。私たちにあってそれぞれの思い出が詰まった路面電車。

電車にまつわる思い出話やちょっといい話をお寄せください。

■締め切り 4月8日(金)
■宛て先 市役所企画課広報統計系 (〒783 南国市大塚甲2301)

東道路

至高知市)

清和学園前

一条橋

明見橋

長崎

小籠通

篠原

住吉通

東工業前

後免西町

後免中町

後免東町

後免町

▲下崎神社 (小籠通電停北へ徒歩約11分)
安産の神様。市内はもちろん、県内外からの参拝客が絶えません。

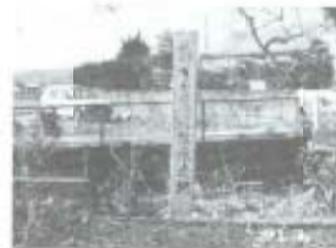
▲武市利右衛門記念碑 (住吉通電停西へ徒歩約1分)
1655~1657年ごろ、東天紅、山鳥などを交配してオナガドしをつくりだす。

▲しょうぶ園 (篠原電停南へ徒歩約5分)
5月下旬~6月中旬が見ごろ。

▲春吉神社 (篠原電停西南へ徒歩約2分)
土佐の回数敷の話が残っている。

▲武市花之丞の墓 (住吉神社東へ徒歩約5分)
藩政時代、安の木を各地から集め住吉神社に植え、桜の名所にした。

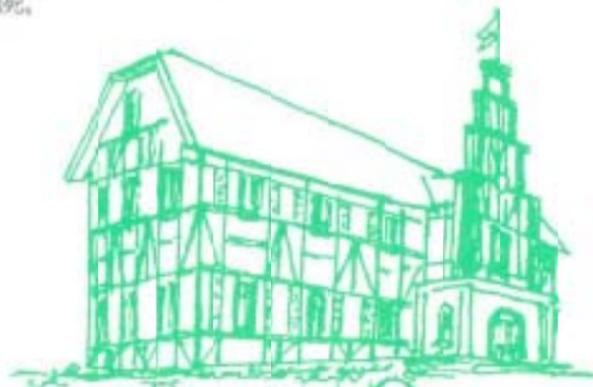
▲柏水 (東工業前電停西南へ徒歩約10分)
源希義が平氏討伐のおり、この地で農夫から柏の葉に盛られた泉水をもらう。



▲源希義戦死の地 (高ヶ池中正門北側)
源頼朝の弟、頼朝に呼んで平氏討伐の兵を擧げるが、やむなくこの地で戦死。



▲田吉神社
後免町創立記念碑が神社南方公園内にあり。



▲土曜市 (後免東町電停南へ徒歩約5分)
朝早くから買物客でにぎわいます。

路面電車がわが国で初めて走ったのは京都であるが、高知では明治三十七(一九〇四)年五月二日に、全国で十番目になる本町線、潮江線が開通し、初めて土佐路に路面電車がお目見えした。土佐にはぐくまれた自由民権運動に見られる進取の気性と、当時高知で活躍していた政財界人の先見の明(めい)と努力によるものであった。

順次東に延長してきた軌道は、明治四十四(一九一一年)五月十四日、遂に後免町東町まで複線で開通した。これより先一月二十七日に大津、後免中町が開通し、二月十一日の紀元節(現在の建国記念の日)に、大塚の長岡郡役所北側で開通式が行われた。

はりまや橋を跨いで島橋を渡った電車が高須村、大津村(現高知市)を経て、大藤村、後免町(現南国市)へ人々と共に文化の薫りを運んでくるようになった。また近代化の進む高知市へ、人々は車窓に広がる香長平野、舟入川、国分川の風景を楽しみながら、出掛けるようになった。

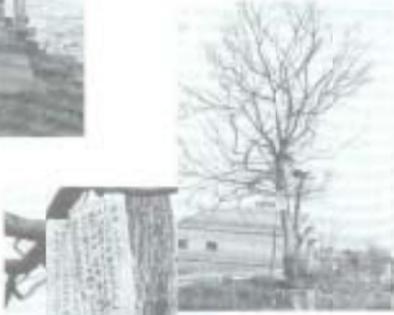
※参考文献
南国市史、土佐電鉄八十八年史



▲明見産山古墳(明見橋電停南へ徒歩約5分)
土佐の代表的な古墳の一つ。円墳で、内径は直径五・七メートル、幅二・一メートル、高さ三・三メートル。



▲武市花之丞の墓 (住吉神社東へ徒歩約5分)
藩政時代、安の木を各地から集め住吉神社に植え、桜の名所にした。



▲柏水 (東工業前電停西南へ徒歩約10分)
源希義が平氏討伐のおり、この地で農夫から柏の葉に盛られた泉水をもらう。